

平成27年11月8日放送

呉北組 佛號寺 重松 守

先日、今年開通した北陸新幹線に初めて乗車しました。息子、娘を連れて向かった先は金沢です。金沢に用事があったわけではなく、子どもと一緒に新幹線を体験することが目的だったので行き先は駅に着いてから決めました。富山～金沢間は各駅停車でも20分くらいの乗車時間です。子どもたちも最初は新しい車両に感動していましたが、最初の5分くらいで興奮から冷めていき、あとはただ座っているだけの時間になっていました。金沢に着いてからも特に決まったプランがあるわけではなく、駅周辺で食事をして周辺をブラブラと散策しました。しかし、土地勘がない金沢駅周辺、子ども達が喜びそうな施設も特になく、時間だけが過ぎていきました。その状況にしびれを切らした娘が「そろそろ家に帰ろう」

と言い出しました。プランがなかった私は、その言葉通り家路へ向かうことにしました。滞在時間は2時間くらいでした。帰りの新幹線は特に感動もなく、子どもたちも終始携帯ゲームをしていました。富山駅に着いた時、私は若干のむなしさと軽くなった財布にショックを感じました。それと同時に、次回はちゃんと目的地とその周辺の情報を調べてから乗ろうと痛感しました。

私たちは、生活の中で目的を持って行動する場面が多いと思います。出世や結婚のため、またはマイホームを建てることや幸せな家庭を築くことなど様々だと思います。目的が定まっていれば、例え途中で苦しみや問題が起きたとしても、目的に向かって歩み続けることができるのではないのでしょうか。逆に、目的の定まっていない歩みは「迷い」の真っ只中であると言えます。

8年ほど前、友人の結婚式に出席するため、福岡県の博多に初めて行きました。見知らぬ土地のため結婚式当日は、博多駅で現地の友人と待ち合わせて、会場へ行くことにしました。私は、事前に用意した地図を片手に友人との待ち合わせ場所に向かいました。ところが、博多駅は私が想像した以上に入り組んでおり、地下街に入った時点で、完全に自分の居る場所を見失ってしまいました。地図を見てもよくわかりません。そこで、待ち合わせている友人に電話をしました。すると友人は、「まわりに何があります？」

と尋ねてきました。私は、周りにある店などを伝えると友人は、

「そこで待っていて下さい。今、そこに行きます」

と言い電話を切りました。しばらくすると友人が私のいる場所まで迎えに来てくれました。

「結婚式会場はこっちですよ」

と案内してくれましたが、その方向は、私が思っていた方向とはまったく違っていました。どうも納得していない私を見て友人は、私の持っていた地図を広げて、

「今いる場所はここですよ」

と、指差しました。すると、私のモヤモヤは一気に晴れました。自分がこの場所まで来た道順と、今いる場所、そして、これから向かう会場までの道のりが、はっきりと一致したのです。今いる場所は同じですが、現在地がわかった瞬間に「迷い」ではなくなったのです。いくら地図を持っていても、目的地を指示してくれても、自分の今いる場所がわからないと、やっぱり「迷い」なのです。

「迷い」にはいくつかのパターンがあります。一つめには、行き先、目的が定まらないこと。二つ目には現在地を見失うこと。三つ目には、目的も定まらないし、現在地も見失うことです。では、私のいのちの歩みにおいて、これら三つの「迷い」に当てはまるでしょうか？迷っている実感が無い方がほとんどではないでしょうか。私たちの「迷い」は、どうもこの三つの「迷い」とは違うみたいです。

いのちを歩むためには、なにを目標として生きるのか、自分の今の姿はどうかを知る必要があります。これらを見失うことは「迷い」の歩みなのです。しかし、私たちは、目的も現在地も見失っているという実感がほとんどありません。それどころか、自分の歩みは正しいと思い込んでいるのではないのでしょうか。これは、目的地も現在地もわかったつもりになって歩み続けているということではないのでしょうか。

浄土真宗は、阿弥陀如来の本願を信じて念仏申す身になることによって、仏となる身に定まり、そして、この世の縁が尽きるとき浄土に生まれ仏となる、という教えです。これは、言葉を換えれば、本願に遇い念仏申す身になることは、いのちの歩みに目的を与えてくださっているのです。それと同時に、今の私の姿を照らして下さるのです。

私たちは、日常生活する上で、何をあてにしているのでしょうか。今まで経験したことや、学んだ知識など様々だと思います。しかし、これらをあてにすることは、言い換えれば、自分の経験や知識だけを拠りどころとして生きていくということになります。こうなると、私たちは自己中心の一方的なものごとの見方しかできなくなります。自分の知識や経験で作らだした目的地と、自分の都合で見つめた自身の姿を「現在地」として歩んでいます。この歩みこそが「無明」の歩みであり「迷い」の歩みではないでしょうか。

本願に遇い念仏申す身になるとは、私の価値観に大きな変化をもたらします。自分の都合や自己中心的なもの見方しかできない私のありのままの姿を照らして下さいます。それは、いのちの歩みの中で、迷いの闇の中、わかったつもりで歩んでいた自分の姿、「現在地」を知らされるのです。

私たちは、なにを目指して生きているのでしょうか。自分の今の姿はどうなっているのだろうか。「現在地」と「目的地」この二つが視野に入ってくると、今いる場所が同じでも、迷いが迷いではなくなってくるのです。そうすれば、これから歩みを進めていく道のりも、照らし出されるのではないのでしょうか。

お浄土に生まれ仏となるという浄土真宗の教えは、先の世界ではありません。今の私のいのちの歩みを支え育み、本当の自分の姿「現在地」を知らせ、そして「目的地」へと、導いてくださる教えなのです。それは、人が本当の人となるための道を歩むことではないのでしょうか。

